

『新着情報』

武漢市 大分市 30 周年記念事業の計画

2月27日、日本大分市「産業交流見本市」説明会が武漢にて開催された。

武漢市大分市友好都市締結30周年を記念し、今年7月から10月にかけて、両市は大規模な相互交流事業を共同で行う予定である。

武漢市と大分市は鉄鋼を契機とした新日本製鐵(株)大分製鐵所と武漢鉄鋼とのプロジェクトの提携を通じた鉄を仲人とする両市の交流の土台を築き、1979年9月に友好都市の契りを結んだ。大分市は武漢市初の国際友好都市であり、2008年11月、大分市の釘宮市長は武漢市を訪れ、武漢市長と2009年度「日本大分市・中国武漢市の友好交流協議書」に調印し、両市間の交流を新たなステージへと推進することとしている。

今年の7月22日前後、武漢や上海などの地域において300年に一度といわれる皆既日食が見られる。この時期に大分市は訪問団を組み「友好の翼」チャーター機で武漢を訪れ、武漢市民と共に皆既日食を観察しながら、歴史的瞬間に立ち合う。同時に、武漢市からも小学生サッカーチームを大分市に派遣し、友好試合を行う。

さらに、10月にも、武漢市はチャーター機「武漢市民友好都市訪問団」を引き続き組織し、大分市にて視察及び交流を行う。また大分市では「武漢パネル

展」が開催される。

武漢鉄鋼の鄧崎琳氏が中国鉄鋼協会会長着任

19 日、国務院国家資源委員会による認可と、中国鉄鋼工業協会理事会の選挙を経て、武漢鉄鋼グループの鄧崎琳総経理が中国鉄鋼協会の会長に着任した。任期は 2 年。

鄧崎琳氏は現在 57 歳、大学院を卒業した教授レベルの高級エンジニアである。かつて全国「五一」労働賞を受賞し、湖北省優秀企業家、湖北省労働モデルなどの荣誉称号を得たほか、国務院の特別な補助金も受けている。共産党第十七次大会の代表であり、第十一次全国人民大会の代表でもある。

2004 年末に、鄧崎琳氏が武漢鉄鋼グループの総経理に就任して以来、武漢鉄鋼が業界において先駆的なエリアを越えた連合経営形態戦略をリードしている。(湖北省)鄂鉄鋼、昆(昆明)鉄鋼、柳(柳州)鉄鋼を再建、また広西省の防都港で大規模な鉄鋼拠点の建設の実績を残している。こうした戦略が折からの中国鉄鋼産業の調整と振興の計画に合致したため、武漢鉄鋼は鉄鋼業界トップ 3 のリーディング企業へと成長した。